

## 高校生向け住生活出前授業「ライフステージに応じた住まい」 授業例

- ・ 高等学校家庭科で行う「家族の生活と住居の計画」の授業について、建築士を外部講師として導入した場合の授業例
- ・ 使用ワークシート：「青森県住まい・住まい方読本」23頁

	担当	項目	内容	時間	留意点
導入	教員	前時の振り返り  本時の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>■前時の授業との繋がりについて教員から説明。</li> <li>■本時の授業の目的について教員から説明。</li> <li>・一人暮らしの場合でも個人個人の住要求に違いがあったように、家族や友人などと暮らす場合、自分の年齢や家族構成、生活の変化によって、必要な住まいはどのように変わっていくのか。</li> </ul>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■本時の前後で関連づける事でより学習効果が上がると考えられる。</li> <li>例)前:自分に合った物件の選び方 後:妊婦体験, 保育</li> </ul>
展開	教員	ゲストティーチャー(以下、GT)の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>■教員がGTを紹介。自己紹介も兼ねてGTが挨拶。</li> <li>・GTの役割を説明する。(多様な住要求を具現化する仕事を通じて、ライフステージに応じた住まいの計画の仕方について講演をいただく)</li> <li>・GTは職業に就いたきっかけや職業の魅力などを交えて自己紹介をする。</li> </ul>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■きっかけや魅力も話してもらうと、職業観育成のきっかけとなる。</li> <li>■GTは平易な表現(専門用語を避ける)を用いて話す事が望ましい。</li> </ul>
	G T	講演① 生活が変わると住要求が変わることについて事例を通して講演	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ライフステージにより変化する住要求</li> <li>・ライフステージによって住要求が変化し、住まいに求められる機能も変化する事を、実践例を交えて講演。</li> <li>例)年齢と家族構成の変化 独身→結婚→出産・子育て→子の就職・進学 →同居</li> </ul>	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■新築、リフォーム、二世帯住宅やシェアハウス等、多様な住宅の実例が盛り込まれる方が望ましい。</li> </ul>
	教員	ライフステージ毎に変化する住要求	<ul style="list-style-type: none"> <li>■年齢に応じた自分の生活を想像し、必要な住まいを考える。</li> <li>・20～50代の自分の生活を想像し、家族構成などを設定して、必要な部屋を考える。(WS記入)</li> <li>・60代の自分の生活を想像し、家族構成などを設定して、必要な部屋を考える。(WS記入)</li> <li>■全体で共有する。</li> <li>・考えた内容を発表する。</li> </ul>	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■個人作業が基本となるが、場面場面で発表を行い、他の意見を共有するのが望ましい。</li> </ul>
	G T	講演② 生活が変わると住要求が変わることについて事例を通して講演	<ul style="list-style-type: none"> <li>■青森の暮らし、他県との違い</li> <li>・積雪や寒さ、立地など、気候風土による住まいの違いについて実践例を交えて講演。</li> </ul>	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■手掛けた住宅を取り上げ、住まい手の想いやそれを実現した工夫を交えることで理解が深まる。</li> </ul>
まとめ		ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> <li>■質疑応答</li> <li>・数人の生徒から講師へ質問。</li> <li>■印象に残った内容、今後に活かしていきたいところ</li> <li>・本時を通して気づいたところ、今後の生活に活かしたいところを考える。(WS記入)</li> <li>■意見を共有する。</li> <li>・本時を振り返った意見を発表する。</li> </ul>	7分	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>■GTから全体講評をもらう。</li> <li>・GTより発表内容から良かった点や不足していた視点等を助言してもらう。</li> </ul>	3分	<ul style="list-style-type: none"> <li>■GTは生徒の発表内容に否定的にならず、良かった点や「こうするともっと良くなる」といった点を挙げるように努める。</li> </ul>